



台湾大学図書館所蔵の 日本研究文献から見た日本植民史 **Viewing the History of Japanese Colonization from the Collection of Japanese Research Documents of National Taiwan University Library**

Shing-Ching Shyu
(National Taiwan University)
2009.09.19 in Norwich, England



はじめに

◎ 歴史背景

I 台北帝国大学 (1928-1945)

II 国立台湾大学 (1945-現在)



台北帝国大学時代の正門



国立台湾大学の正門

- ◎ **1984** 年から台湾、日本、東南アジア、アジア
四つの地域研究の資料コーナーを設けた。
- ◎ 日本研究の資料収集重点（哲学、宗教、教育、歴史、
地理、社会科学、□ 用科学、言語、文学、芸術）
- ◎ 日本近代史及び日本文学
- ◎ 明治期の旧籍（古代から近現代まで）



旧総図書館（現校史館）

日本研究文献

I 日本語善本と線装書

II 植民地時代における日本人の研究

*伊能文庫

*田代文庫

*台湾旧写真

*『臺灣時報』

*台湾宗教、民俗資料、図録



新総図書館

Ⅲ 原住民関係

- * 「蕃人所要地調査書」
- * 「蕃人調査表」

Ⅳ 法律関係の旧籍と統計資料

- * 台湾法実証データベース
- * 台湾日治時代統計データベース



総図書館の全景

一、日本語の善本

◎ 桃木文庫 (**540** 部、**4859** 冊)

◎ 長沢文庫 (**485** 部、**1073** 冊)

◎ 上田文庫 (**331** 部、**332** 冊)



その他 **2272** 部、**8598** 冊



台湾大学図書館の珍藏室



台湾大学図書館の善本書庫

(1) 桃木文庫

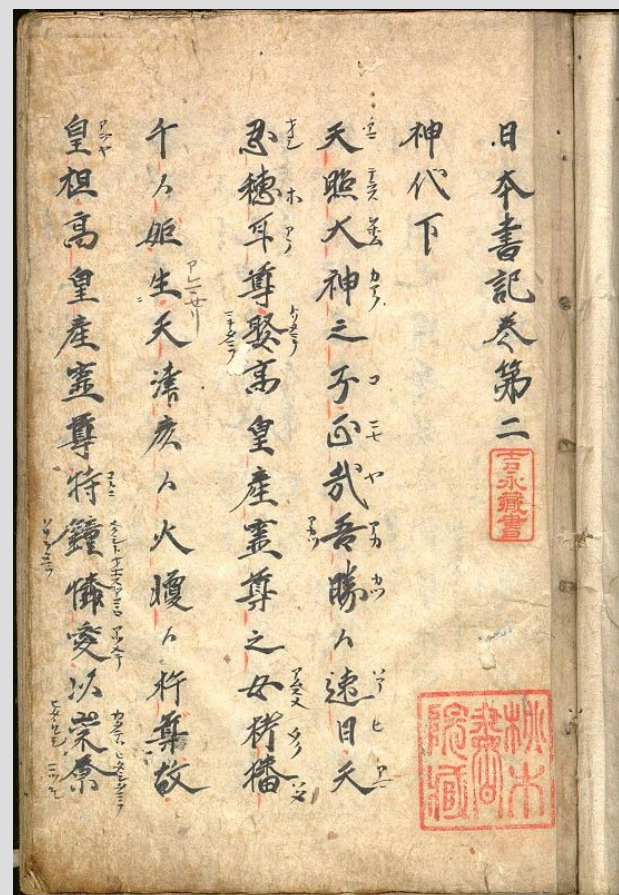
- ◎ 原□ 者：桃木武平
- ◎ 昭和 **4** (**1929**) 年 **3** 月 **21** 日
神戸の「白雲堂」から購入



「桃木文庫」 『古事記』 と 『日本書紀』 の版本

文献名	卷数	作者	年代	分類
古事記頭書	三卷	賀茂真淵		朽木文庫桃木 書院蔵書在印
古事記頭書	三卷	田安宗武		朽木文庫桃木 書院蔵書在印
日本書紀神代卷	下卷一冊		嘉吉二年 (1442)	古写本(円威本) (世界の孤本)
日本書紀神代卷	下卷一冊		文亀三年 (1503)	古写本
日本書紀神代卷	上下卷二冊		室町末期	古写本
日本書紀神代卷	上下卷二冊		慶長九年 (1604)	古写本
日本書紀神代卷	上下卷二冊		江戸初期	古写本
日本書紀神代卷	上卷一冊		江戸初期	古写本

『日本書紀』の二つの版本



○序

萬葉集卷第一

雜歌

泊瀬朝倉宮御宇天皇代

天皇御製歌

高市崗本宮御宇天皇代

天皇登香具山望山之時御製歌

天皇命使山人連老獻歌并短歌

時軍王見山作歌并短歌

明日香川原宮御宇天皇代

後崗本宮御宇天皇代

額田王歌

額田王歌

幸紀伊溫泉之時額田王作歌

中皇命往于紀伊溫泉之時御歌三首

中大兄三山御歌一首

近江國大津宮御宇天皇代

天皇詔內大臣藤原朝臣鏡麿春山萬花之艷

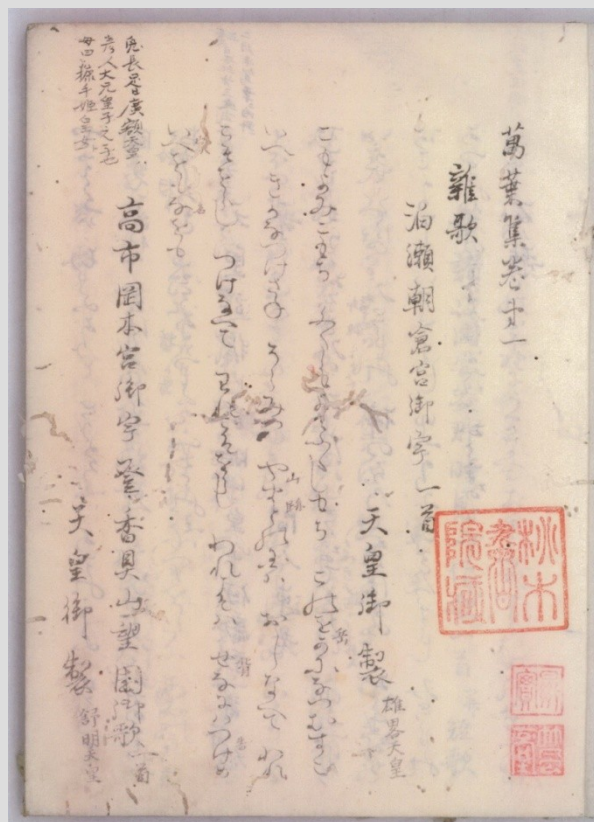
秋山千葉之彩時額田王以歌判之歌

額田王下近江國時作歌

井戶王和歌

天皇遊獵萬生野時額田王作歌

皇太子答御歌

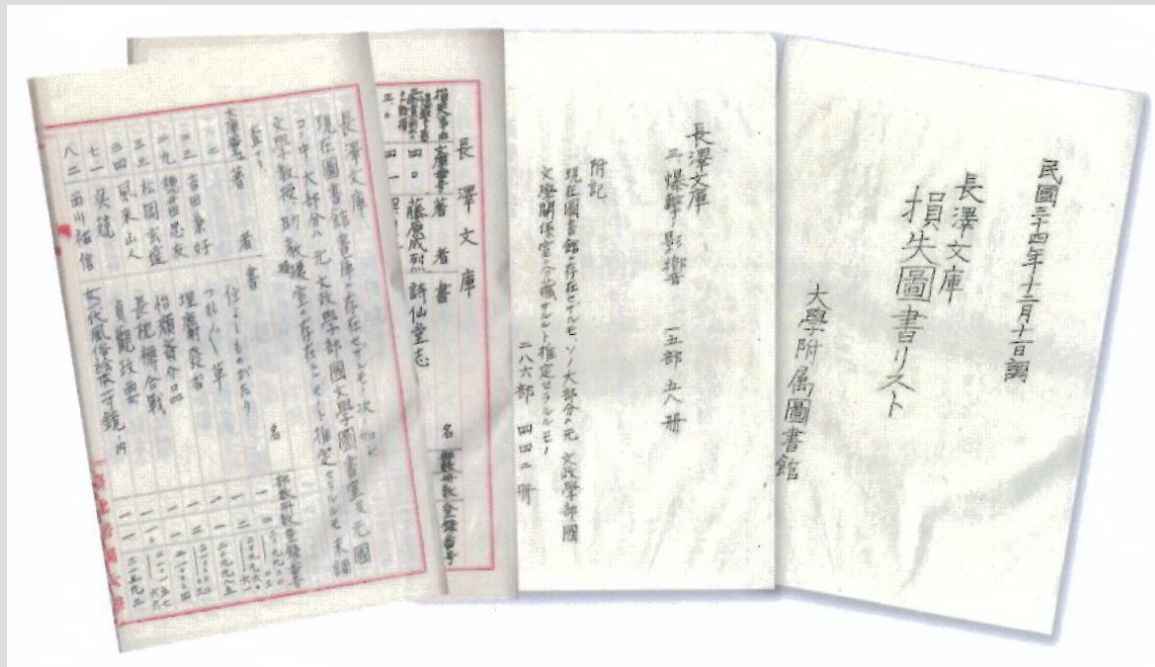


(2) 長澤文庫

- ◎ 原蔵者：長澤伴雄（**1808-1859**）
- ◎ 昭和 **7**（**1932**）年 **2**月 **25**日
大阪の「杉本梁江堂」から購入



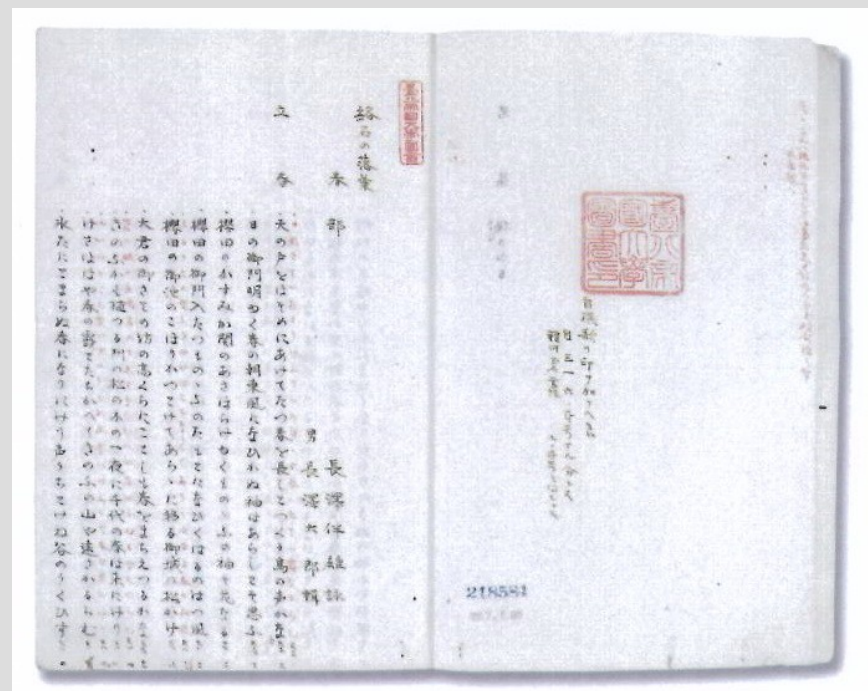
長澤伴雄の蔵書記



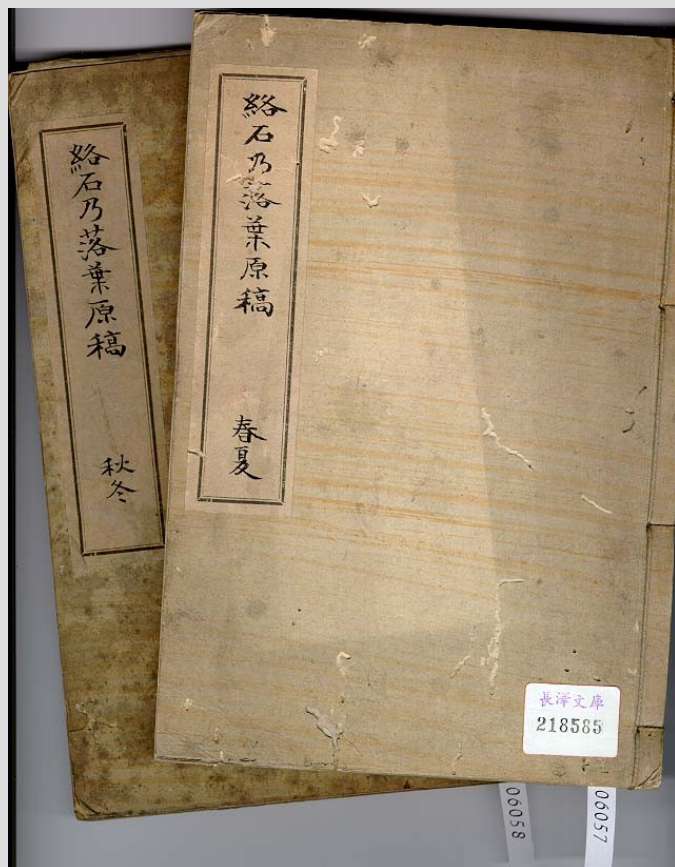
空襲による損失図書リスト



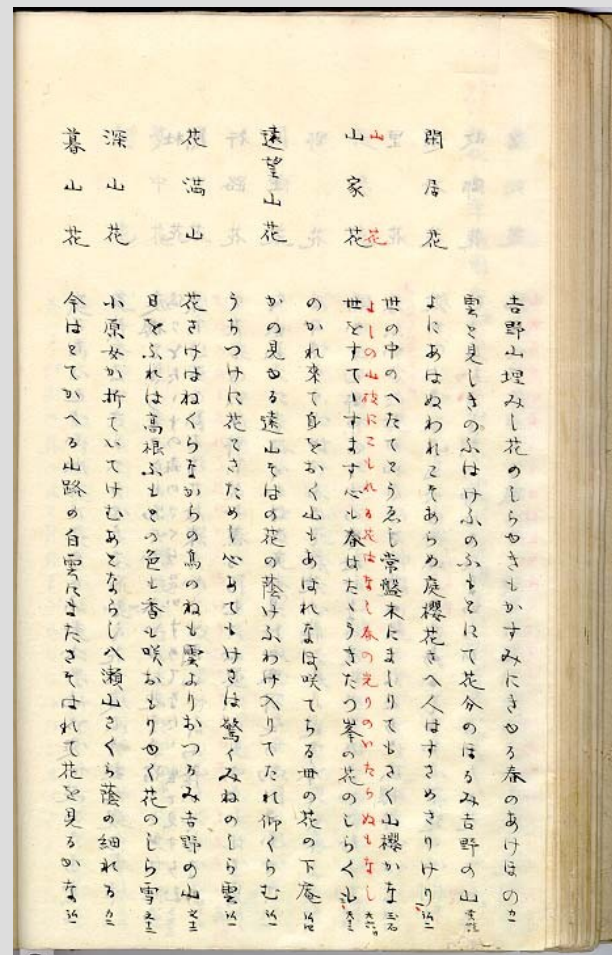
『絡石の落葉』稿本群



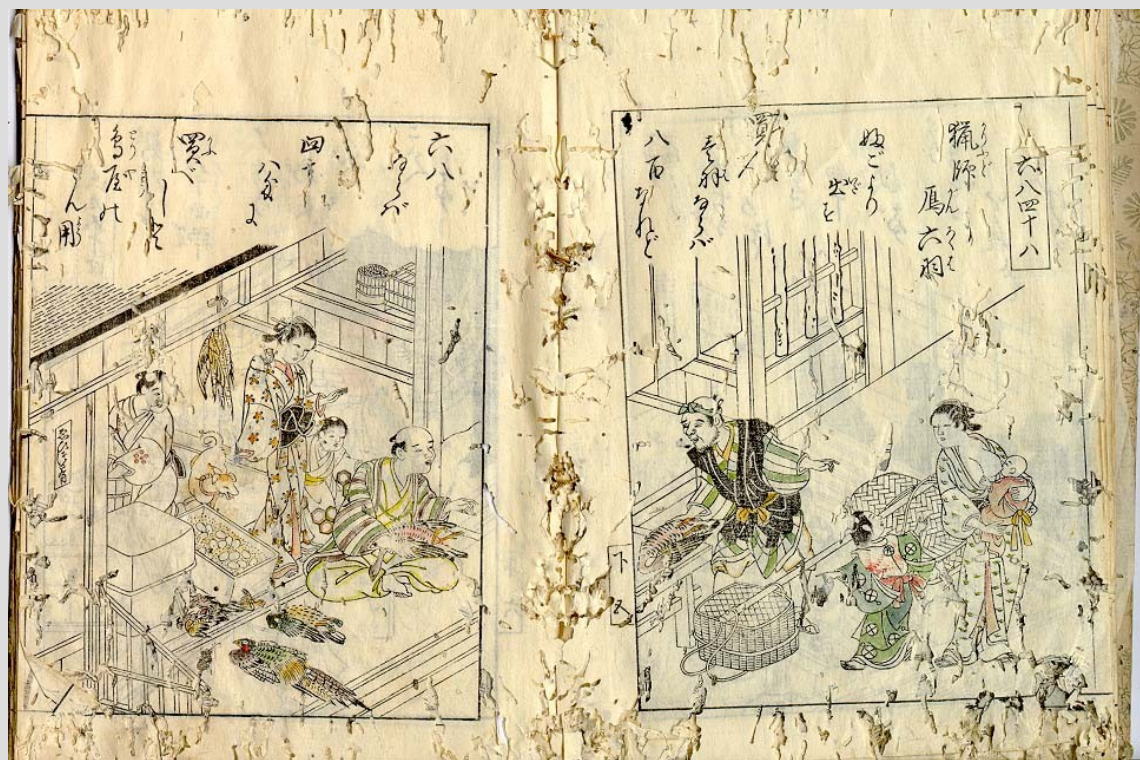
『絡石の落葉』の本文



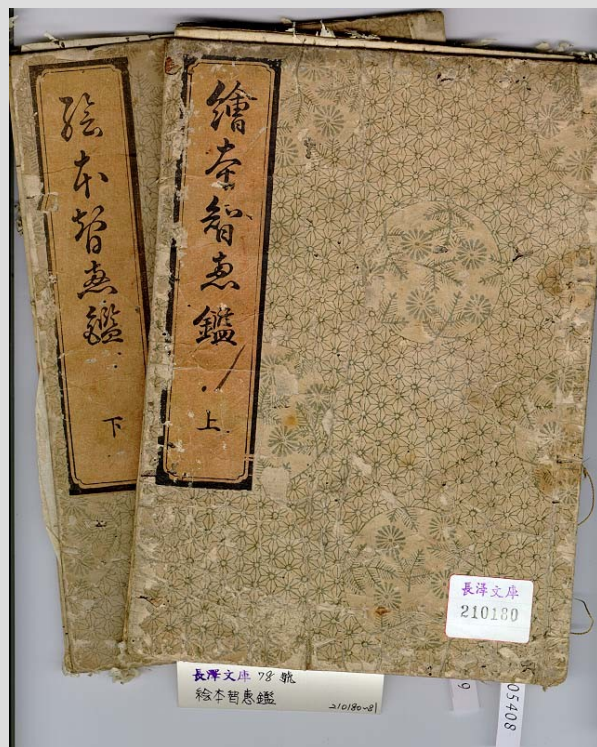
『絡石の落葉』原稿



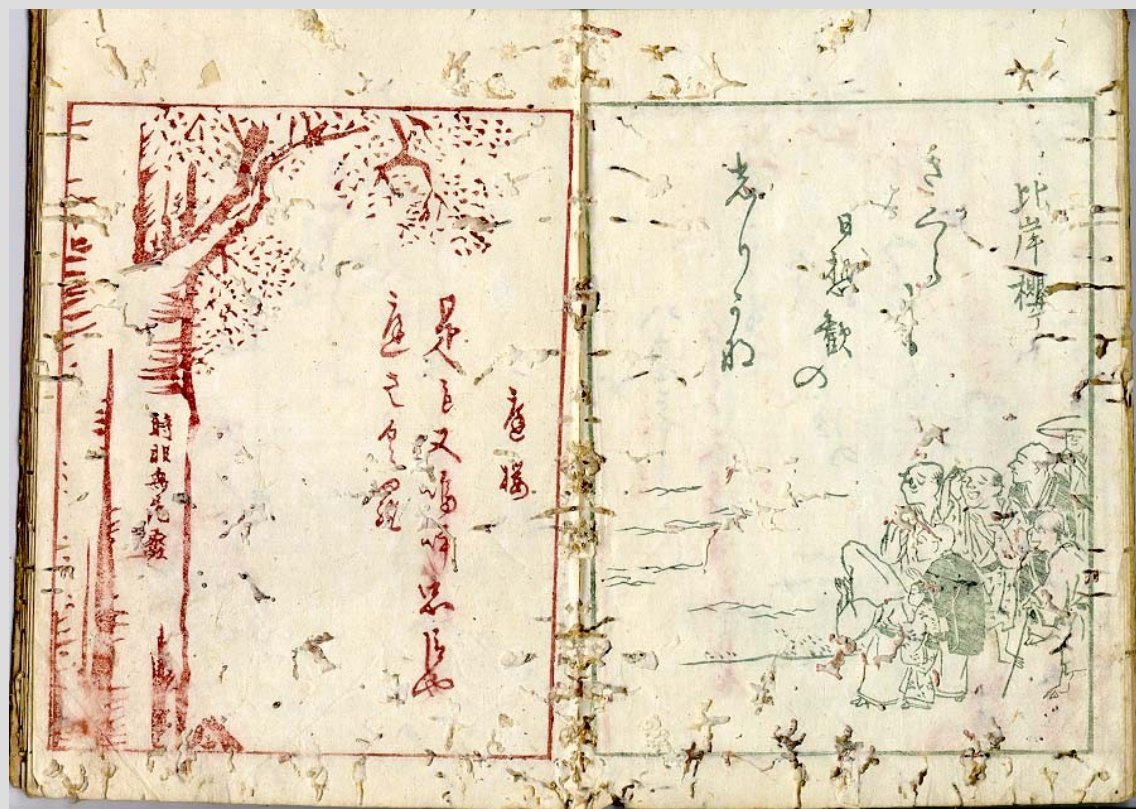
『絡石の落葉』の本文



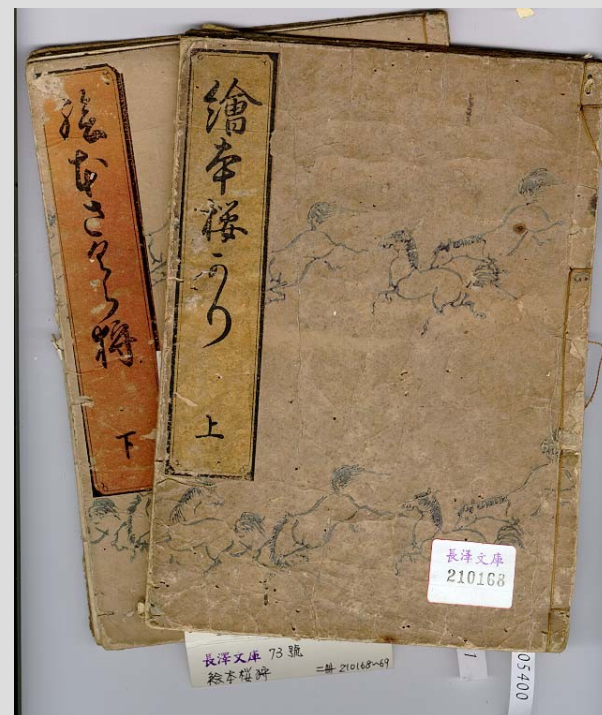
『繪本智恵鑑』の本文



『繪本智恵鑑』



『繪本桜狩』の本文



『繪本桜狩』

(3) 上田文庫

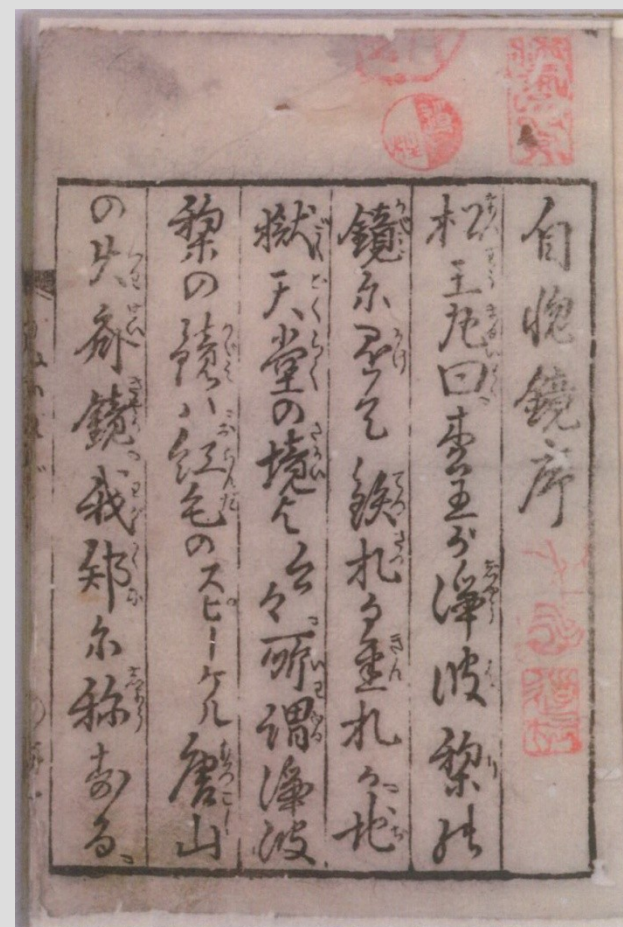
- ◎ 原蔵者：上田萬年（**1867-1937**）
- ◎ 昭和 **5**（**1930**）年 **10** 月 **10** 日購入



上田文庫の所蔵品



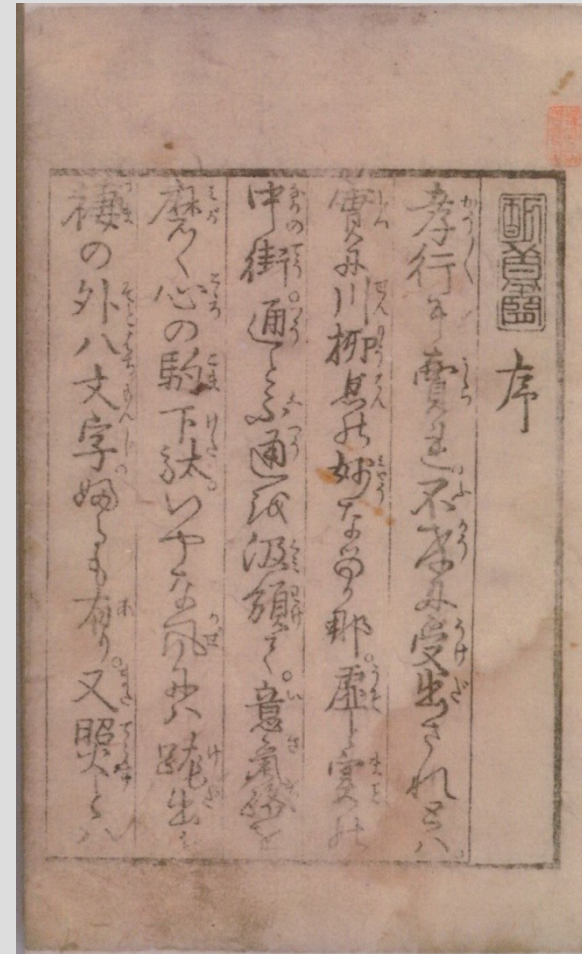
『自惚鏡』



『自惚鏡』の序



『傾城買二筋道』



『傾城買二筋道』の序



『碁太平記白石噺』



『碁太平記白石噺』の本文

ニ、日本人の台湾研究

(1) 伊能文庫

- ◎ 明治、大正時代に出版した台湾関係の洋装書
- ◎ 台湾史関係資料写本（彙鈔）
- ◎ 民俗・歴史・言語による田野調査の筆記
- ◎ 伊能嘉矩の著作、未刊原稿、雑誌及び新聞の切り抜き
- ◎ 未刊行の他人意見書、調査資料
- ◎ 伊能嘉矩の研究構想系統図など



伊能嘉矩
(1867-1925)

了

第三編	文治武備沿革	第一章 文治の規制	第二章 武備の規制	第三章 文治の規制	第四章 武備の規制	第五章 文治の規制	第六章 武備の規制	第七章 文治の規制	第八章 武備の規制	第九章 文治の規制	第十章 武備の規制	第十一章 文治の規制	第十二章 武備の規制	第十三章 文治の規制	第十四章 武備の規制	第十五章 文治の規制	第十六章 武備の規制	第十七章 文治の規制	第十八章 武備の規制	第十九章 文治の規制	第二十章 武備の規制	第二十一章 文治の規制	第二十二章 武備の規制	第二十三章 文治の規制	第二十四章 武備の規制	第二十五章 文治の規制	第二十六章 武備の規制	第二十七章 文治の規制	第二十八章 武備の規制	第二十九章 文治の規制	第三十章 武備の規制	第三十一章 文治の規制	第三十二章 武備の規制	第三十三章 文治の規制	第三十四章 武備の規制	第三十五章 文治の規制	第三十六章 武備の規制	第三十七章 文治の規制	第三十八章 武備の規制	第三十九章 文治の規制	第四十章 武備の規制	第四十一章 文治の規制	第四十二章 武備の規制	第四十三章 文治の規制	第四十四章 武備の規制	第四十五章 文治の規制	第四十六章 武備の規制	第四十七章 文治の規制	第四十八章 武備の規制	第四十九章 文治の規制	第五十章 武備の規制	第五十一章 文治の規制	第五十二章 武備の規制	第五十三章 文治の規制	第五十四章 武備の規制	第五十五章 文治の規制	第五十六章 武備の規制	第五十七章 文治の規制	第五十八章 武備の規制	第五十九章 文治の規制	第六十章 武備の規制	第六十一章 文治の規制	第六十二章 武備の規制	第六十三章 文治の規制	第六十四章 武備の規制	第六十五章 文治の規制	第六十六章 武備の規制	第六十七章 文治の規制	第六十八章 武備の規制	第六十九章 文治の規制	第七十章 武備の規制	第七十一章 文治の規制	第七十二章 武備の規制	第七十三章 文治の規制	第七十四章 武備の規制	第七十五章 文治の規制	第七十六章 武備の規制	第七十七章 文治の規制	第七十八章 武備の規制	第七十九章 文治の規制	第八十章 武備の規制	第八十一章 文治の規制	第八十二章 武備の規制	第八十三章 文治の規制	第八十四章 武備の規制	第八十五章 文治の規制	第八十六章 武備の規制	第八十七章 文治の規制	第八十八章 武備の規制	第八十九章 文治の規制	第九十章 武備の規制	第九十一章 文治の規制	第九十二章 武備の規制	第九十三章 文治の規制	第九十四章 武備の規制	第九十五章 文治の規制	第九十六章 武備の規制	第九十七章 文治の規制	第九十八章 武備の規制	第九十九章 文治の規制	第一百章 武備の規制
-----	--------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------

第二編 領臺原始
第一章 臺灣に於ける鄭氏
之に對する清朝の
勅諭
支那近世史上一活劇たる明清二朝興替の
機は實に明の萬曆四十六年愛親覺
羅努爾哈赤太祖が滿洲に起り建
元して天命といひ漸く南下の勢を示し、

第二編 清朝以前に於て支那人に
知られたる臺灣
海中孤島の地在東隅、形似彎弓、此は臺灣に
於ける最初の地名たる臺灣紀略（康熙二十四年
教授林）の形勢に記述する一節なる如く臺灣の
本島及び其附屬諸島の一群により狹き臺灣
海峡内に形つくらう、弓状列の特徴は或る
過去の時代に在りて支那大陸の分離に成りしを

伊能嘉矩『臺灣文化志』の手稿

四海圖第四十七 每方二千里



『臺灣文化志』の挿絵

目次	110
第一章 臺灣の概況	110
第二章 臺灣の歴史	110
第三章 臺灣の地理	110
第四章 臺灣の政治	110
第五章 臺灣の経済	110
第六章 臺灣の文化	110
第七章 臺灣の交通	110
第八章 臺灣の国防	110
第九章 臺灣の外交	110
第十章 臺灣の教育	110
第十一章 臺灣の衛生	110
第十二章 臺灣の産業	110
第十三章 臺灣の社会	110
第十四章 臺灣の宗教	110
第十五章 臺灣の風俗	110
第十六章 臺灣の言語	110
第十七章 臺灣の文学	110
第十八章 臺灣の美術	110
第十九章 臺灣の音楽	110
第二十章 臺灣の体育	110
第二十一章 臺灣の娯楽	110
第二十二章 臺灣の科学	110
第二十三章 臺灣の技術	110
第二十四章 臺灣の法律	110
第二十五章 臺灣の行政	110
第二十六章 臺灣の司法	110
第二十七章 臺灣の警察	110
第二十八章 臺灣の消防	110
第二十九章 臺灣の衛生	110
第三十章 臺灣の産業	110
第三十一章 臺灣の社会	110
第三十二章 臺灣の宗教	110
第三十三章 臺灣の風俗	110
第三十四章 臺灣の言語	110
第三十五章 臺灣の文学	110
第三十六章 臺灣の美術	110
第三十七章 臺灣の音楽	110
第三十八章 臺灣の体育	110
第三十九章 臺灣の娯楽	110
第四十章 臺灣の科学	110
第四十一章 臺灣の技術	110
第四十二章 臺灣の法律	110
第四十三章 臺灣の行政	110
第四十四章 臺灣の司法	110
第四十五章 臺灣の警察	110
第四十六章 臺灣の消防	110
第四十七章 臺灣の衛生	110
第四十八章 臺灣の産業	110
第四十九章 臺灣の社会	110
第五十章 臺灣の宗教	110
第五十一章 臺灣の風俗	110
第五十二章 臺灣の言語	110
第五十三章 臺灣の文学	110
第五十四章 臺灣の美術	110
第五十五章 臺灣の音楽	110
第五十六章 臺灣の体育	110
第五十七章 臺灣の娯楽	110
第五十八章 臺灣の科学	110
第五十九章 臺灣の技術	110
第六十章 臺灣の法律	110
第六十一章 臺灣の行政	110
第六十二章 臺灣の司法	110
第六十三章 臺灣の警察	110
第六十四章 臺灣の消防	110
第六十五章 臺灣の衛生	110
第六十六章 臺灣の産業	110
第六十七章 臺灣の社会	110
第六十八章 臺灣の宗教	110
第六十九章 臺灣の風俗	110
第七十章 臺灣の言語	110
第七十一章 臺灣の文学	110
第七十二章 臺灣の美術	110
第七十三章 臺灣の音楽	110
第七十四章 臺灣の体育	110
第七十五章 臺灣の娯楽	110
第七十六章 臺灣の科学	110
第七十七章 臺灣の技術	110
第七十八章 臺灣の法律	110
第七十九章 臺灣の行政	110
第八十章 臺灣の司法	110
第八十一章 臺灣の警察	110
第八十二章 臺灣の消防	110
第八十三章 臺灣の衛生	110
第八十四章 臺灣の産業	110
第八十五章 臺灣の社会	110
第八十六章 臺灣の宗教	110
第八十七章 臺灣の風俗	110
第八十八章 臺灣の言語	110
第八十九章 臺灣の文学	110
第九十章 臺灣の美術	110
第九十一章 臺灣の音楽	110
第九十二章 臺灣の体育	110
第九十三章 臺灣の娯楽	110
第九十四章 臺灣の科学	110
第九十五章 臺灣の技術	110
第九十六章 臺灣の法律	110
第九十七章 臺灣の行政	110
第九十八章 臺灣の司法	110
第九十九章 臺灣の警察	110
第一百章 臺灣の消防	110

『臺灣文化志』の目次

國立臺灣大學圖書館
National Taiwan University Library

臺灣通信社生る

事情が今尙公平正厳詳細月報紹介せられざりしを遺憾なく議長廣山虎次氏社長の下に臺南の設立を見るに至り編輯主任南智臺北支局主任たりし佐々木に當るべし尙事務所を臺南に置き毎月十一回内地船便毎發行し大いに本島の紹介に努むる旨書は左の如し

工は山腹を占め、蝦夷
に混するを常とす。副
産物たり。

○夕張 石狩炭田中
夕張第一炭坑 石
知郡栗澤村に跨り鑛
り鐵道室蘭本線によ
れば、東方約三十
は三枚ありて上層下
にして五寸乃至三尺
尺、中下のは二百八
社の經營にかゝり、

三、聚會の事項は電報局を爲すべし
四、本社通信料は四月に會社へ問（但都郵
通信のものは別な場合を減つ）電報
料は、取らず受くるべし
五、本社は特に事務、調査の依頼に應ずべし
六、本社は内回新聞社による廣告取次
の依頼に應ずべし

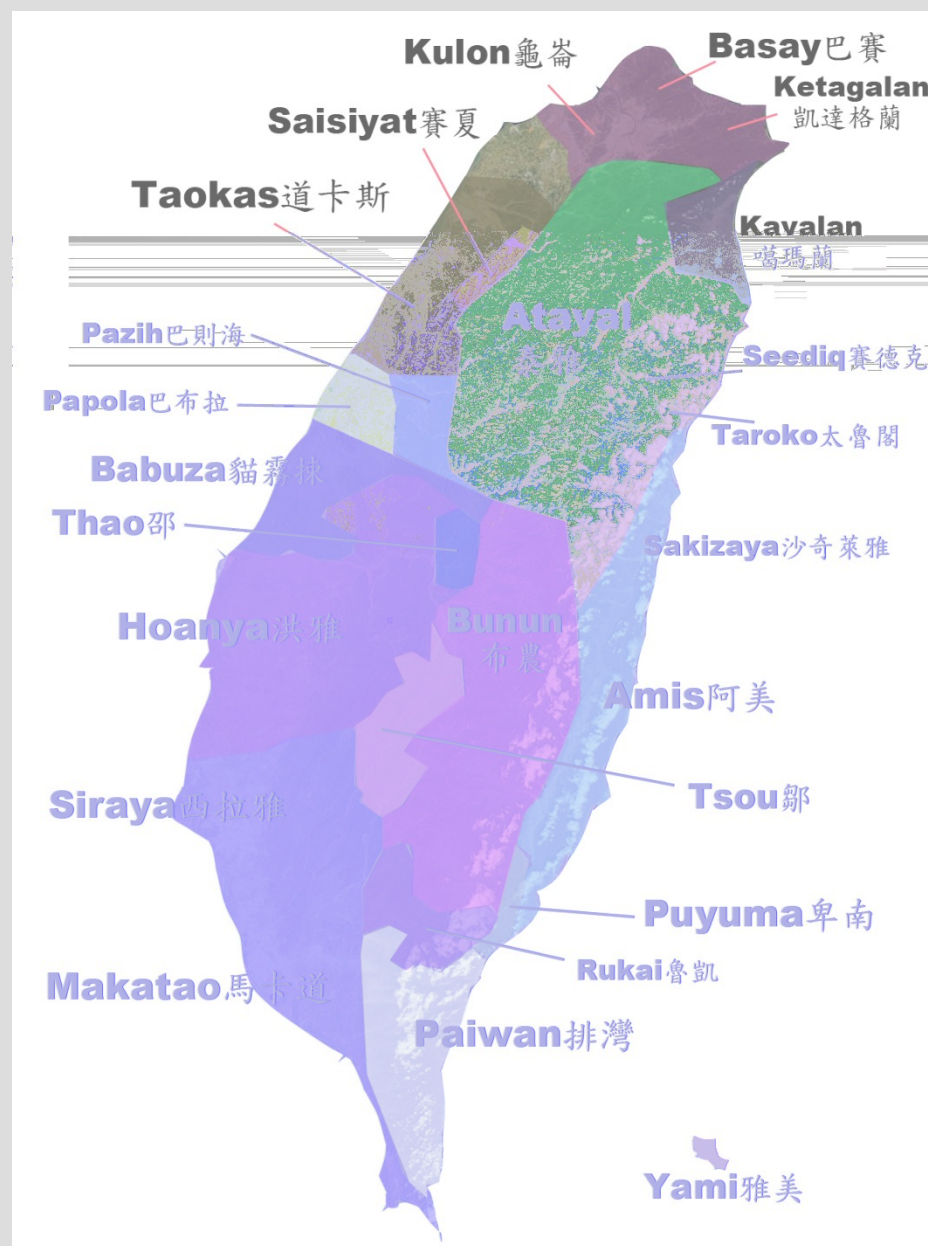
[illegible]

鐵路も其東北麓に至りて山に達し、之より五里半田驛まで專用鐵道にして平均八尺半の深さにして、九一億九千萬噸の貨物を運送せる。探掘を更に進めて、日八十八佛噴（大山）

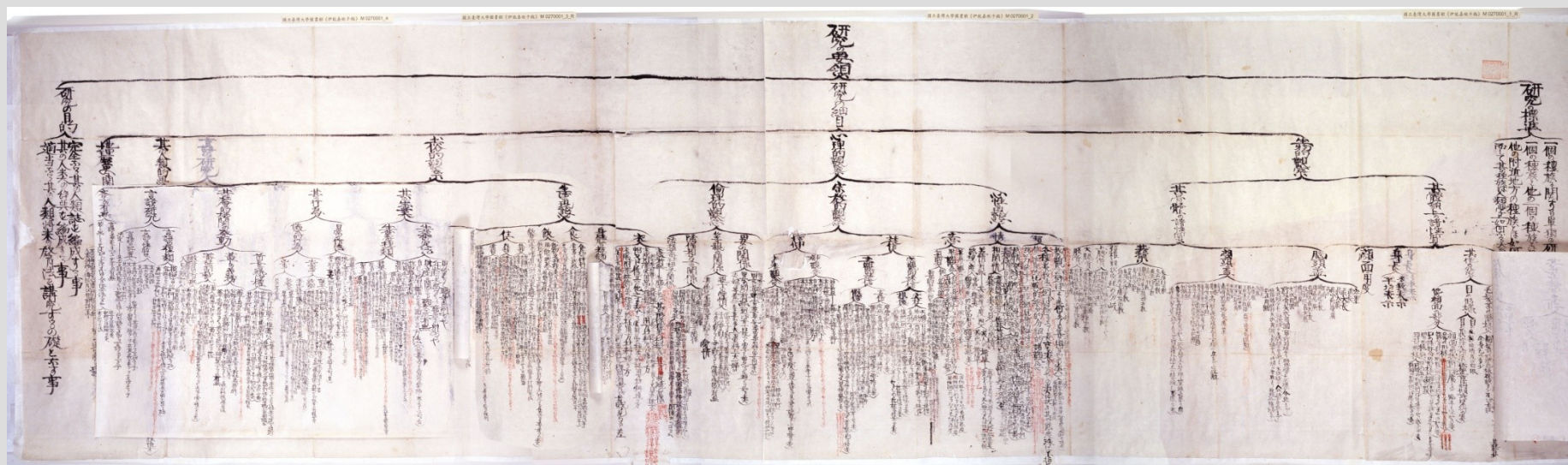
鐵道によつて搬出する新土張炭坑 第二方に位し、鐵道至點の所におり、鐵道約詳に分れる所の懸隔數炭層は上部四尺層（より成る。本層は六の石炭質泥板岩あり（同前）の三層に目的は上群の炭層をみる社の經營にかゝり産

[illegible]

伊能嘉矩『臺灣事要』の草稿



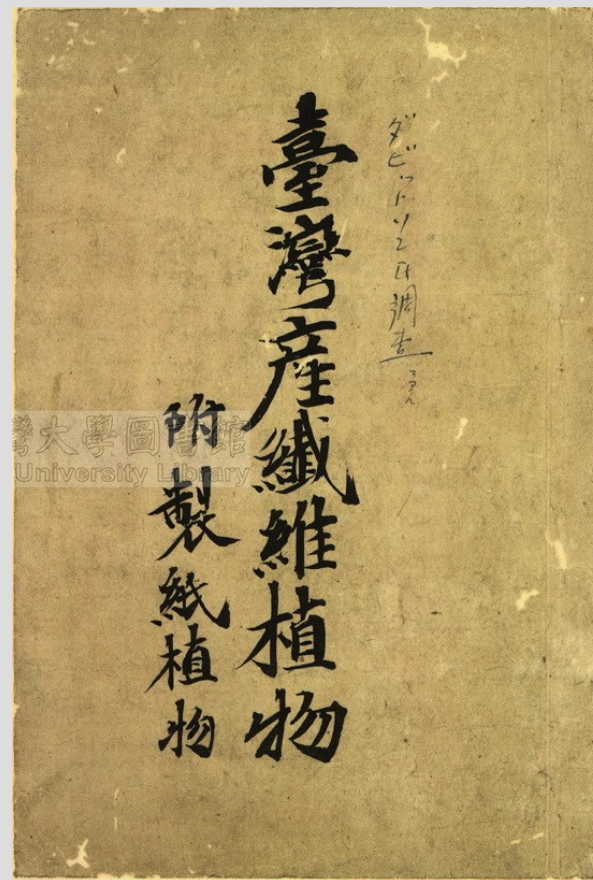
台湾原住民の種族別と生活地域図



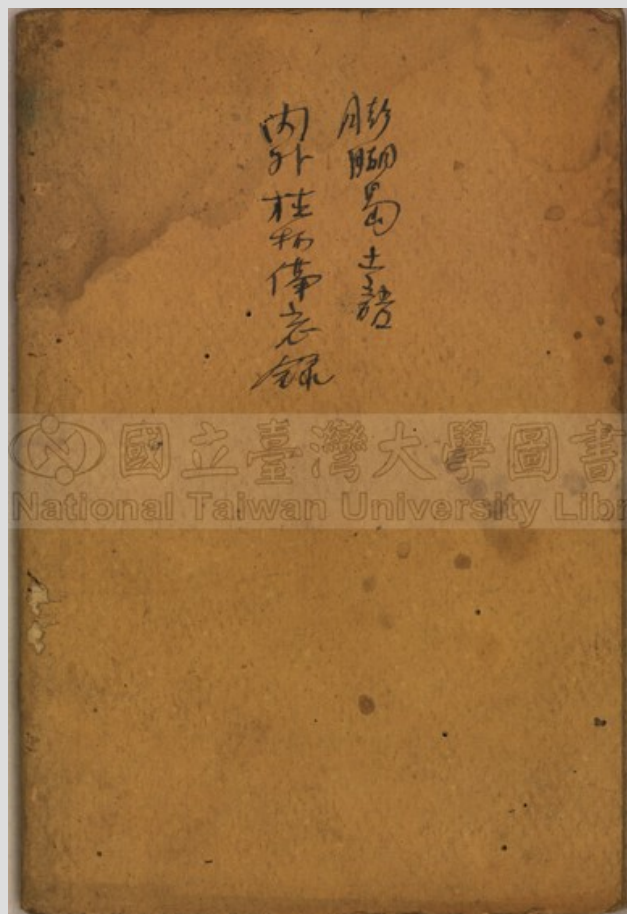
伊能嘉矩『蕃人研究標準』

(2) 田代文庫

- ◎ 原蔵者：田代安定
- ◎ 植物学研究及び調査報告
台湾植物学研究の濫觴



『臺灣産纖維植物』



『內外植物備忘錄』



『爪哇恒春種子目錄』

台南縣森林調查書目次

前編

第一章 地形、地勢 一

第二章 廣度位置、區域 一

第三章 山脈 二

第四章 溪川 三

第五章 地質、土壤 五

第六章 溫泉 六

第七章 道路 七

第八章 運搬 八

第九章 氣候 九

第十章 民族、土俗、地已 十四

第十一章 戶口、教育 十四

第十二章 各民族、社交的關係 十八

第十三章 畜人生活、狀態 二十

第十四章 畜人農耕、狀態 二十二

第十五章 畜人土地所有、狀態 二十四

本編

第十六章 森林、概況 二十八

第十七章 森林已劃 三十九

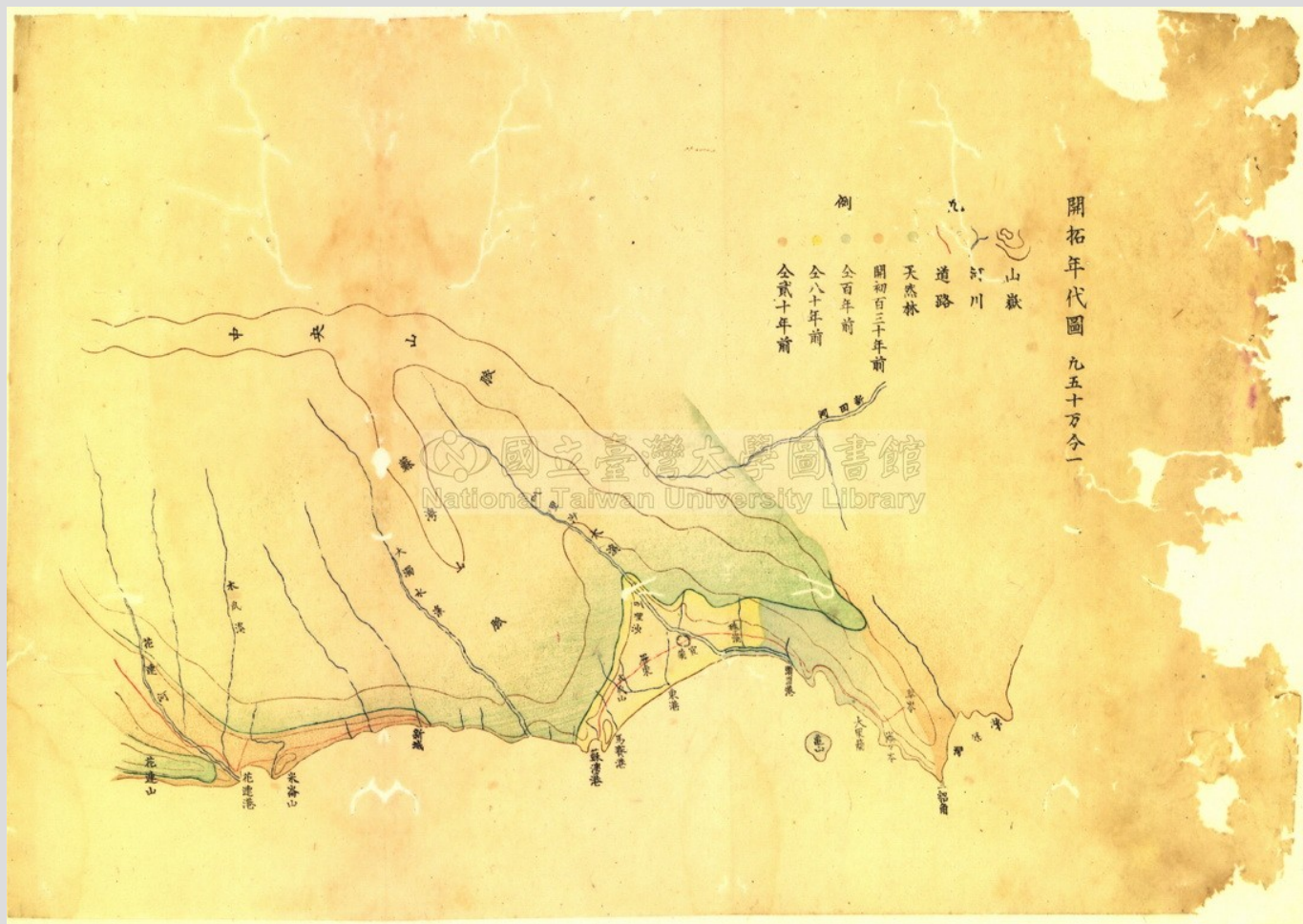
第十八章 豫定國有林及國有林以外地面積 四十一

第十九章 豫定國林、種別面積及林種 四十三

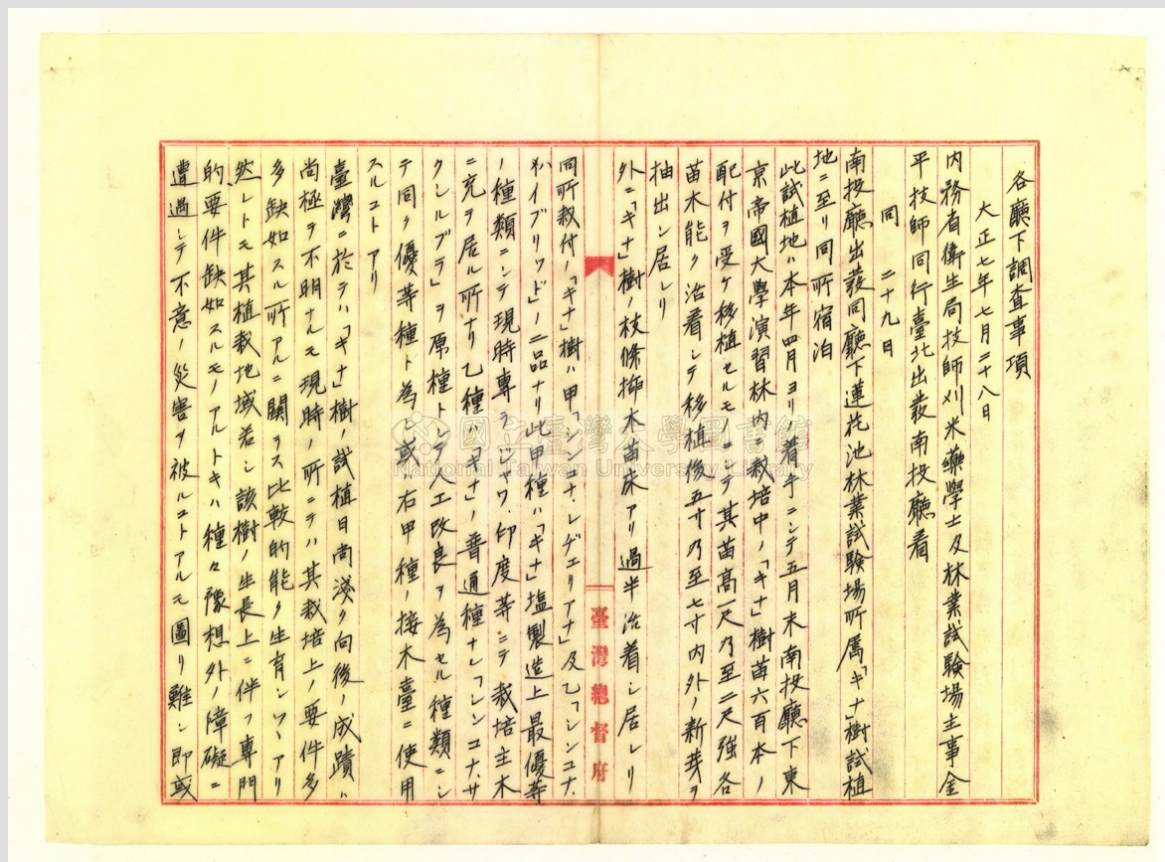
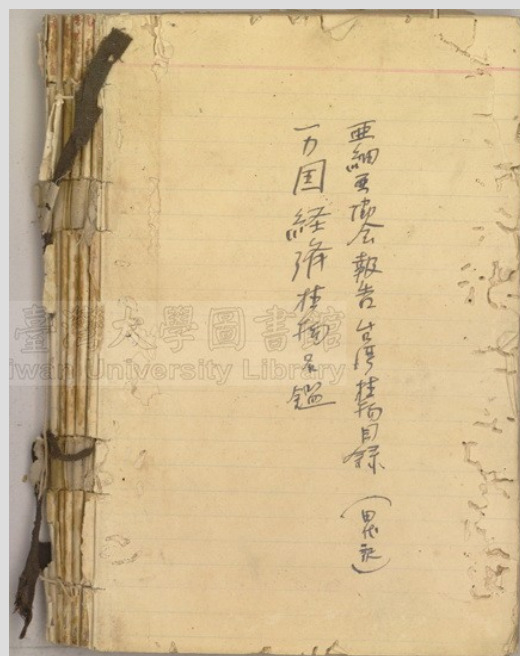
第二十章 國有林及有林豫定、理由 四十五

第二十一章 林地所有、已公、方法及時期 五十一

『台南縣森林調查書』目次



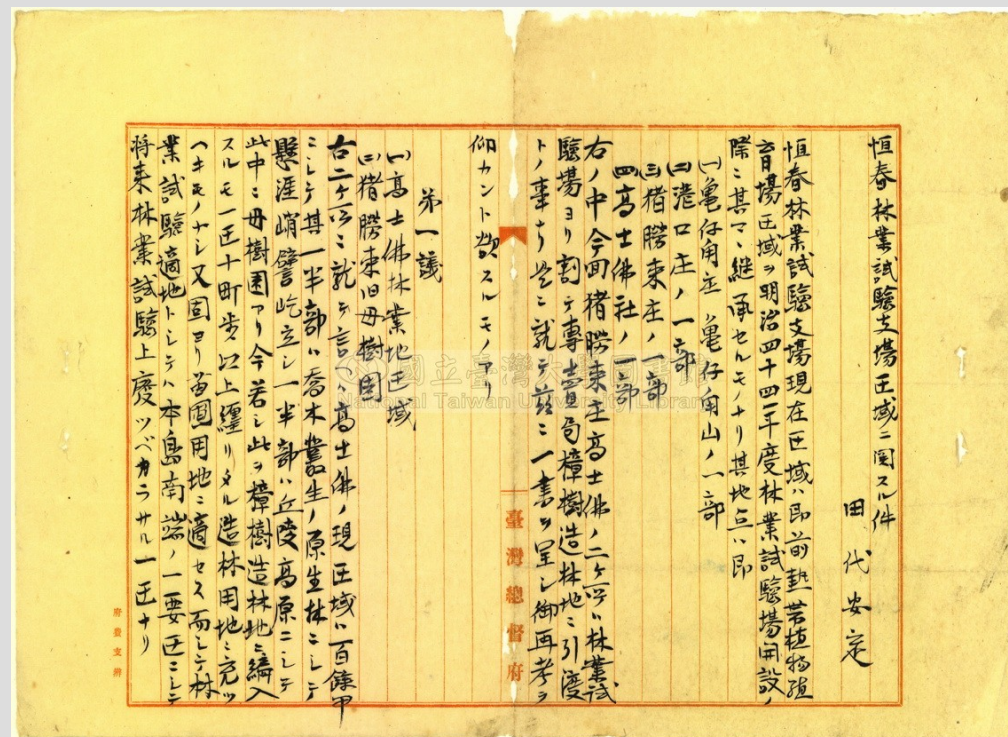
『開拓年代圖』



『有用植物調查復命書』



「恒春支島之位置」



「恒春林業試験支場区域ニ関スル件」

(3) 台湾の旧写真

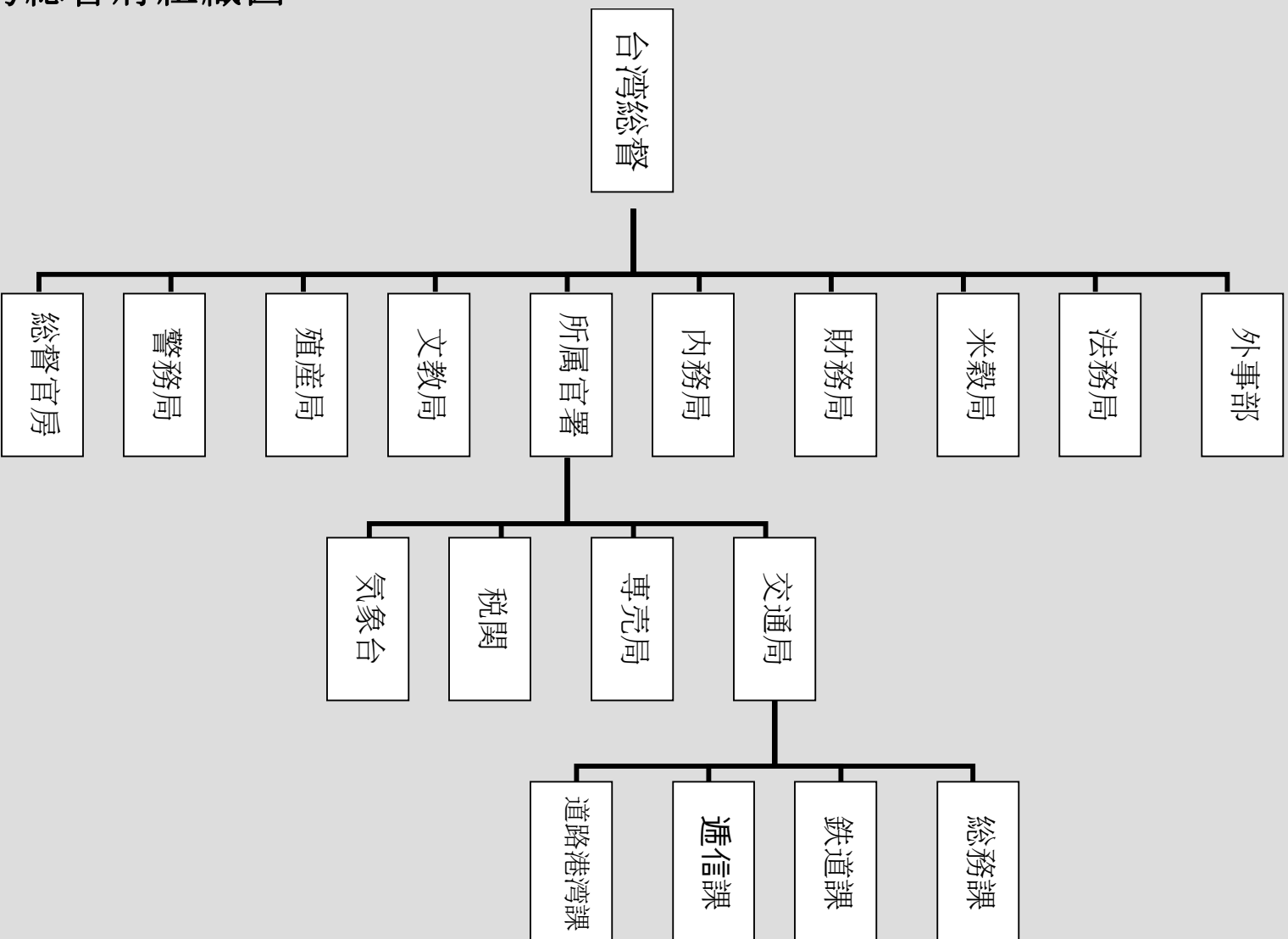


台湾総督府

日本統治 50 年間で建築された最大の建築物。台北の日本人居住区である城内のほぼ中央に位置する。高さが 60 m ある中央塔からは、台北の街がほぼ全体見渡せたそう。塔には台湾初のエレベーターが設置された。

7 年の建設期間を経て 1919 年竣工。建物は東向き（日本の方向）に建っており、上から見ると”日”の構造になっている。辰野式建築の代表作。

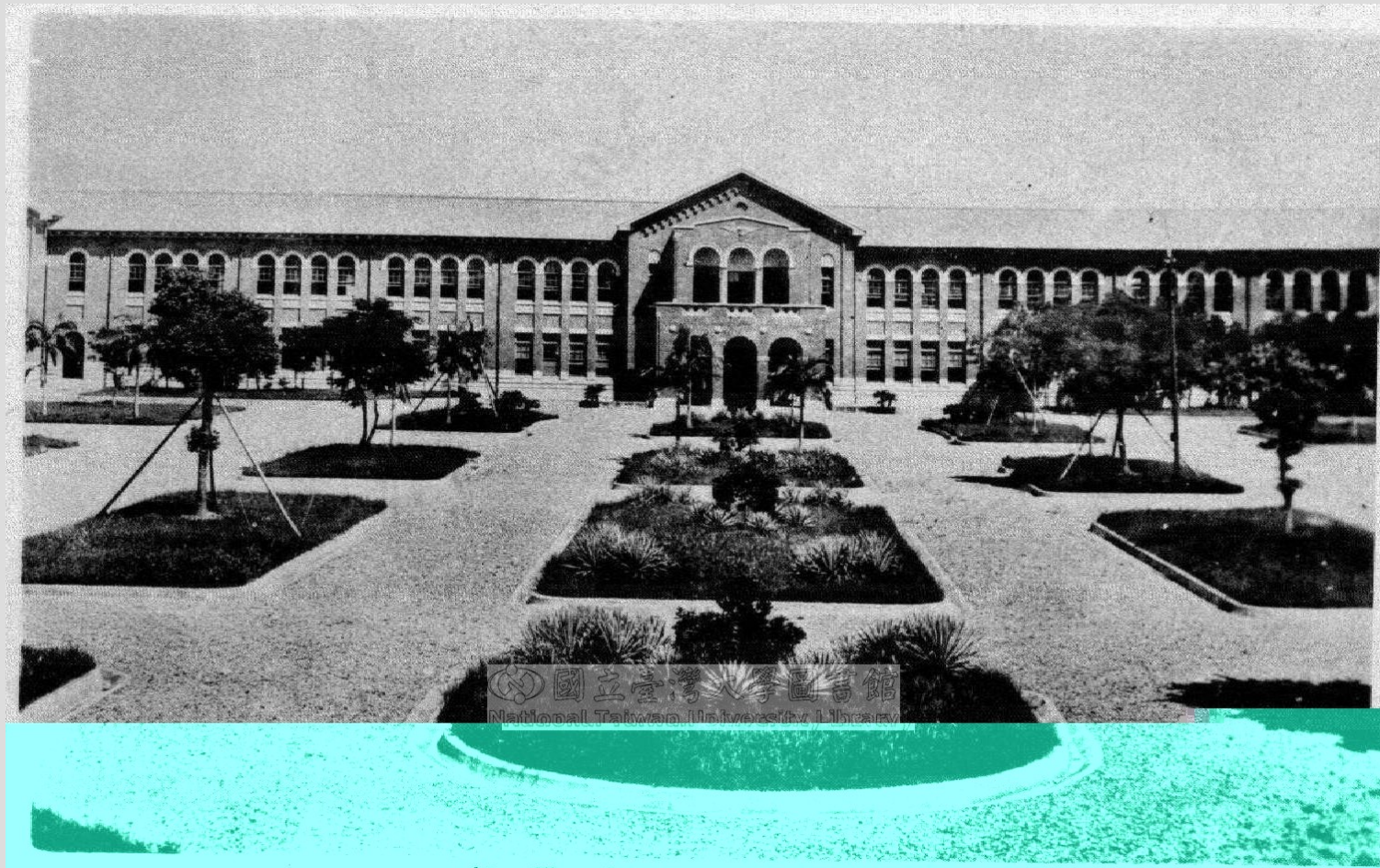
台灣總督府組織図





台北廳廳舎

日本統治時代、台湾の行政は五州三廳に分けられており、台北廳は現在の台北市、台北県、宜蘭県および基隆市を包括していた。大正4年（1915）、日本人が多く集う行政と商業の中心である城内の外に、地方行政の中心である台北廳廳舎が竣工。大正9年（1920）台北廳は台北州に改められる。



台北帝国大学文政学部

鉄筋鉄骨二階建て、折衷様式を採用。外壁には淡褐色の北投産タイルが使用されている。車寄せを抜け、正面玄関に入ると、広々としたホールと二階までの吹き抜けがあり、モザイクタイルでデザインされた階段廻りの意匠の美しさに見とれてしまう。踊り階段を経て二階へ上がると、8本のイオニア式柱が配置され、優美な空間を演出している。



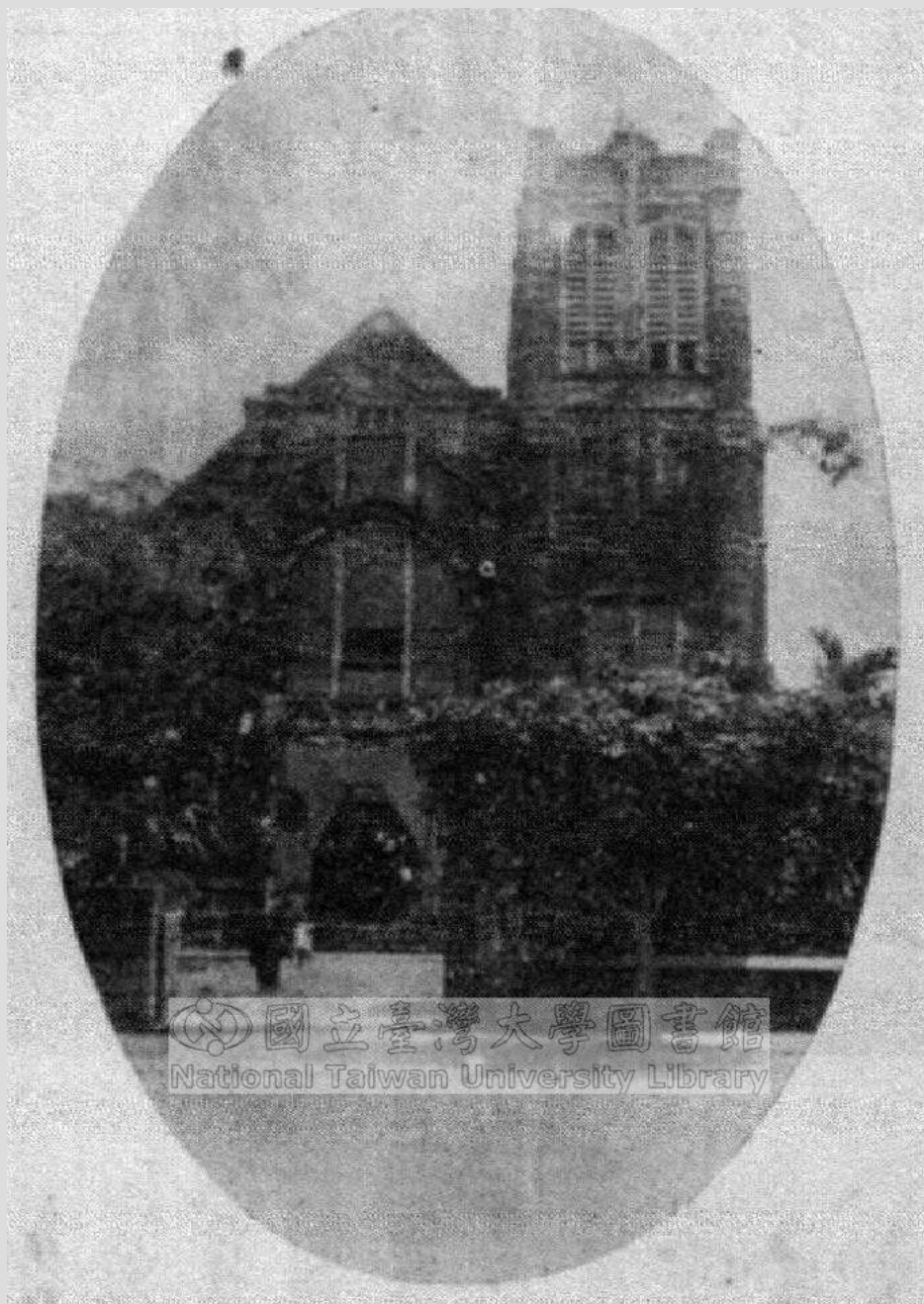
児玉総督後藤民政長官記念館

大正2年（1913）、清時代の台北府城天后宮の跡地に、児玉総督後藤民政長官記念館を建設。同4年竣工、台湾総督府民生部殖産局付属博物館として利用される。日本統治時代、商業や金融の中心であった城内の表町に立地。ドリス式オーダー、ドーム、花模様やメダリオンで装飾された三角ペディメントを有する豪華絢爛なルネッサンス様式建築。



専売局

1895 年台湾統治を開始した総督府は、1901 年専売局を設立。食塩、酒、阿片、樟脳、煙草などを専売とし、統治経営の財源とした。1913 年、全台湾の専売事業を統括する専売局を竣工。一時は専売局の収入が、総督府の歳入の 64 % を占める財源となったことから、この建物がいかに重要な役割を演じたか想像出来る。建物は二段階に分けられて建築された。1913 年に左右の棟が、1922 年中央の高塔が建てられた。



日本基督教団台北幸町教会
台湾統治が始まって間もない明治
29年（1896）、馬偕牧師と台湾人
豪商・李春生の協力のもと、日本基
督教団幸町教会を成立。大正5年
（1916）、現在の教会を竣工。戦
前は日本人専用の教会となっていた。
戦後、台湾基督長老教会済南教会と
なる。赤煉瓦と石との混合構造とな
っており、歴史を経た煉瓦のくすん
だ色合いが南国の西日に映えて美し
い。



台北郵便局廳舎

日本統治時代、運輸を担う鉄道の重要性が高まり、大稻埕から現在の台北駅付近に移転。その後、昭和5年（1930）、当時には珍しい鉄筋コンクリート三階建ての建築物が建てられた。近代折衷主義を取り入れており、壁面の列柱や、ロビーの天井部など細部は古典建築の影響を受けている。もともと入り口は半円アーチが連なる車寄せがあり、また建物は三階建てであった。



台北西門市場

1896 年、台北西門の外側に木造の簡易市場が作られた。1908 年、正式に赤レンガの八角堂と十字型の建物を竣工。市場の名前は町名を取って新起街市場。八角堂は二階建て、赤煉瓦と鉄筋コンクリート造りで、屋根の鉄骨が雨傘のように放射状に開いている。その名の通り八面体の建物で、八角堂と十字型の建物はつながっている。

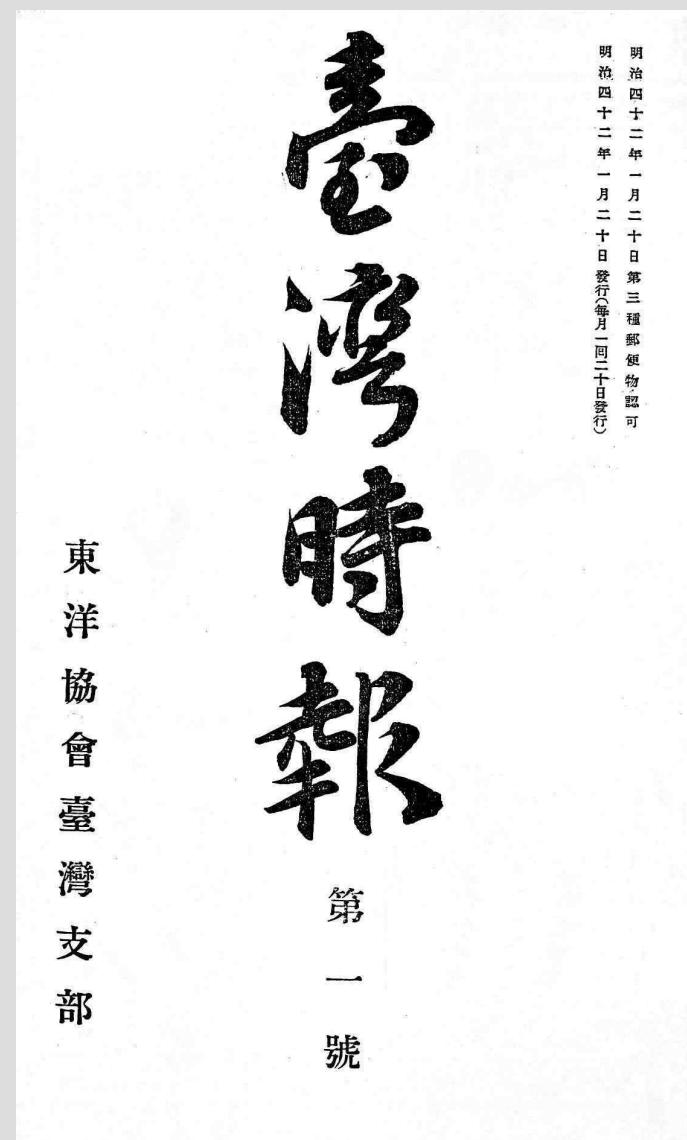


北投温泉の公共浴場

1896年、大阪商人の平田源吾が、この地に台湾最初の温泉旅館”天狗庵”を開いたのが、北投温泉の発祥と言われる。1913年、台北州庁が静岡県伊豆山温泉を模倣し、北投温泉公共浴場を開く。外観はイギリスビクトリア様式を基調に、一階は赤レンガ・鉄筋コンクリート造り、二階は木造構造になっている。

(4) 『臺灣時報』

- ◎ 台北「東洋協會台灣支部」により
- ◎ 明治 42（1909）年 1 月に創刊
- ◎ 大正 8（1919）年 5 月に停刊
- ◎ 計 113 期を刊行



『臺灣時報』第一号の表紙

臺灣時報

第百三十三號

大正八年五月十五日

目次

衛生と經濟との關係……………醫學博士 堀内次雄……………一	戰後の國際經濟戰と南洋市場……………	法學士 木村増太郎……………九
裏面より觀たる清朝治下の臺灣……………蕉 鹿……………一三	米國事情……………	一六
臺灣の諸會社……………	二五	
彙報……………	二五	
漢文時報……………	二一、三四	
▼東京御成年式▼大和魂真意義▼世界春光▼東洋經濟界		
▼臺灣金融▼臺灣刑法觀▼日本詩述之推移		

東洋協會臺灣支部

『臺灣時報』第一一三號の目次

臺灣日誌

五月

十五日(木)

○明石總督は臺灣電力株式會社創立委員たるべき官民五十餘名を帝國ホテルに招待し會社設立の趣意を述べて官半民の由來に及び、尙ほ株割當の方針としては臺灣統治に關する政策的意味を加へて臺灣の土著人並に臺灣に住する内地人になるべく廣く行きならめたる希望なりとの趣旨の挨拶ありし旨十四日東京電あり

○陸軍閣議 本島陸軍各團隊長會議を臺北書院街なる陸軍銀行社に開く各部隊高級警官及び各師成病院長會議も引續き開催せらる

十六日(金)

○華南銀行の加盟 来る三月十五日營業開始の華南銀行は本日より臺北事務所交換所に加盟す

十七日(土)

○小規模移入 復又十萬圓移入す

○業人選展覽會 臺灣業人選展覽會を新公園博物館樓上に開く

十九日(月)

○殖産地統治決定 赤道以北の獨領諸島は五月七日首相會議に於て日本の委任統治に決定せる旨外務省の由十月東京電

○正算の増加 大藏省發表五月十五日現在正算總額は十六億六千三百萬圓に達す十八日東京電

○水電事業開始 本日より臺灣電力株式會社に關する事務を土木局庶務課長室に於て取扱ふ

二十一日(水)

○鳳山、海軍、無煙電信所 大正六年三月起二年有餘を経て工事を完成せる同所は本日通信開始式を舉行す

二十四日(土)

○綱要改定 府令十八號を以て臺灣紳章條規を改正す

○臺灣電力株式會社設立委員 左の諸氏に委員を委嘱す
池田謙三、今村繁三、馬場一、堀江次郎、得能佳吉、宮崎近思、陳中和、李景盛、林德興、林德興、男爵大倉喜八郎、小倉恒、賀田金三郎、金子眞吉、川原義太郎、岡田年、顏雲年、立花淳吉、高田金吉、高島小全、治田中兵衛、工學博士國澤、法學博士津村秀松、中川小十郎、中村次郎、村井吉兵衛、内田信也、野澤次郎、車田萬藏、郭春樹、山下鶴三郎、山本傳二郎、柳生一義、男爵安場末吉、安田善三郎、松岡富雄、松方廣、松方正義、松方正毅、馬場善平、堀江牧田環、藤山雷太、藤澤政次郎、男爵古河虎之助、古賀三千人、小山健三、小松楠彌、幸新策、安部幸之助、後宮信太郎、赤石定藏、赤司初太郎、荒井泰治、淺野純一郎、廣生二郎、坂野殿次郎、坂本義實、佐田家平、堀岡軍之佐、櫻井鐵太、佐々木勇之助、相馬中治、許廷光、木村久壽彌、木村久太郎、木村民、南新吉、三村三平、志村源太郎、下坂藤太郎、土方久衡、平田初熊、榮後六郎、工學博士須田利信、鈴木梅四郎(イハハ順)

二十七日(火)

○明石總督歸府 上京中の明石總督は信濃丸にて本日歸府せらる

○海軍戰艦紀勢號發會 午後六時三十分龍運ホテルに開く

二十九日(金)

○明石總督の東部巡視 明石總督は補地方部長以下隨員と共に花蓮港、臺東、阿緬縣管内巡視の爲め行經九日の議定を以て本日臺北を發せらる

三十日(土)

○労働局設置の決定 内務省にては巴里講和會議に於て國際労働の原則を可決したるに因り労働局を新設するに決定せる旨二十八日東京電

○電力事務章程 臺灣電力株式會社設立委員事務章程全文發表二十九日東京電

三十一日(土)

○法制統一 大政官布達以來種々難多なる現行法令を統一整理する爲め政府は法制整理に關する官制調査の歩を進めつつある旨二十九日東京電

○郵船新航路 日本郵船にては横濱を基點として南支及印度方面に至る定期航路を開始するに内定し六月一日より二週一回就航の由三十日東京電

○臺灣地租規則改正 田畑養魚池の租率を改正し大正八年度分より適用する旨本日公布改正によりて百三十六萬圓の増収あるべし

○練習艦 八雲基隆に入港す

一日(月)

○水産協議會 殖産局主催の同會は本日より總督府會議室に開かる

六日(金)

○戰利品運搬 我々日連艦は戰利品運搬艇七隻を

支那及南洋情報

臺灣總督官房調查課

『支那及南洋情報』

情 報

支 那

□釐金に關する臨時執政令

十一月二十六日附臨時執政令に云く、「釐金の名目は清季に創り、只臨時籌餉の爲に設けられたるにて、諸る古代關市の徴に衡すれば、義に於て本と未だ合せざるあり。且つ各處通過の貨物に就き、節々に抽收すれば、工商業の發展に於ける影響甚だ鉅なり。近年以來政府は深く其の弊を知りて屢々裁撤の議あり。願ふに各省屬軍政の要需は玆に賴りて挹注するを以て、舊慣に因仍し未だ蠲除を與へざり

□支那各省最近人口の實數

支那の人口は統計なければ詳細を語る能はざりしが、近頃人口に關する専門書を作成するものあり、特に各省の當局に向ひ戶口表を徴したるに、已に回答を彙集したるを以て、玆に表列すること左の如し。

一、直隸	三,七〇〇,五〇〇	四、陝西	九,四八五,五〇〇
二、河南	三,八三三,九〇〇	五、甘肅	五,九七九,九〇〇
三、山西	二,二四〇,五〇〇	六、新疆	二,五九六,九〇〇

き。然るに長く此を遷延せしむるは殊に商民を體恤し財政を整飭するの意に非ず。されば財政部をして財政善後委員會に會同し、各省區釐金及釐金に類似せる通過稅捐を一律に妥籌して裁撤し、玆に裁釐準備の前及實行裁撤し竣りし後、各省區の原と釐金に恃りし支款は如何に確實に抵補するかは詳に辦法及進期期限を擬定し呈候核奪せしめよ。此を令す」と。

七、奉天	三,八四七,九〇〇	一四、四川	四,七六六,〇〇〇
八、吉黑	九,二五八,五〇〇	一五、湖北	三,七二七,四〇〇
九、江蘇	三,八三三,九〇〇	一六、江西	二,四四八,〇〇〇
一〇、浙江	三,〇四〇,〇〇〇	一七、湖南	二,八四三,七〇〇
一一、安徽	二,九三三,五〇〇	一八、廣東	三,七二七,四〇〇
一二、福建	三,七二七,四〇〇	一九、廣西	二,三九六,五〇〇
一三、山東	三,八三三,九〇〇	二〇、雲南	九,八六一,〇〇〇

雜報

來艦船の擴張、汽車の修理に於て益々需用を増加すべし而して目下日本全國の工場が作出する產高幾何なるやは未だ充分に之を確め得ざるも現時相當の設備を有する製造所を示せば左の如し

社名	現在拂込資本	設立
三田サム製造合名會社	八〇、〇〇〇	二十六年八月
日本護謄株式會社	九〇、〇〇〇	三十二年十月
東洋護謄株式會社	二〇七、二九五	三十三年八月
合資會社明治護謄製造所	五〇、〇〇〇	三十三年二月

即ち放資額より謂くば三十二年以降三會社の増設に依り合計四十二萬七千二百圓を以て從事するを見る此外大阪に一會社あり尙箇入組織にて執業するもの數箇所あり今日日本護謄製造株式會社に就て過去五箇年間の產額を聞くに左の如し

年次	生護謄	板護謄	諸護謄製品
三十四年	二萬八千三百六十五圓十錢		
三十五年	四萬九百九十二圓十四錢四厘		
三十六年	五萬六千六百九十圓二十錢		
三十七年	九萬七千二百二十四圓三十四錢二厘		
三十八年	十一萬二千四百二十八圓三十九錢六厘		

即ち三十四年を一〇〇とすれば三十八年は正しく三九六の増加なり此一會社にして賣上額の騰進尙斯の如し全國の一年製造額優に百二十萬を下らざるべし更に聞く所に依れば護謄製品に要する生護謄は一に之を外國に仰ぎ原料として外國に支拂ふ金額實に內國製造品價額の五六割なりと左に生護謄其他の輸入趨勢を示せば

二十六

年次	生護謄輸入高	板護謄輸入高	諸護謄製品輸入高
二十八年	二二、一一一	五九、七六三	二二二、七九五
二十九年	二八、八九一	五七、四二二	二二五、三九九
三十年	二二、五九六	六九、一八六	二二九、六二五
三十一年	三三、三六五	五三、二二二	二七九、九五六
三十二年	七八、六八七	八六、五一四	二〇四、五八一
三十三年	一〇四、三五八	一〇三、八八二	三三二、八五九
三十四年	一三六、〇六四	八六、四七二	一六二、八七九
三十五年	一九五、六八八	八七、七九六	二四一、三三九
三十六年	二一七、一三一	六六、六五二	二七九、九一四
三十七年	五四八、六五五	一二三、六九五	一六三、七七一
三十八年	八四五、九五〇	一二二、五七二	二七八、九七九

以上の如く昨年の生護謄輸入高は八十四萬五千餘圓なるが若し當業者の言に従ひ製造の結果其價を倍にするものとせば昨年の製造高は百六十九萬餘圓に達したる譯なり而して輸入増進の趨勢を見るに三十八年を以て二十八年に比するときは生護謄は三倍七割二分板護謄は九割四分六厘諸護謄製品は二割四分一厘の増率となるが特に注目するは生護謄輸入の増進にして此増進は正に日本に於ける製造高の増加を表彰するものなり殊に板護謄及諸護謄製品が輸入増進力を失はざるを以て見れば將來益々斯業の多望なるを信ずるに難からざる可しと云へり

樟腦に關する臺灣總督の諭告

佐久間臺灣總督は樟腦保護に關し本月九日左の如き諭告を發したり
樟腦は藥劑として又工業品の原料として世に貴重せらるゝこと人の普く知る所なり而も產地に限あるの故を以て其の

一錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルヲ發見シタル時
一第十四條第二項第十五條第二項ノ命令ニ從ハサル時
一納税期限内ニ礦區税ヲ納メサル時

律令第二十二號參照

明治二十九年九月七日律令第六號臺灣礦業規則(全年全月二十三日官報抄錄)

第八條 臺灣總督ニ於テ礦業ノ許可ヲ與フベキモノト認ムルハ其ノ期日ヲ定メ百圓以上三萬圓以下ノ保證金ヲ納メシメテ之ヲ許可ス

保證金ハ有價證券ヲ以テ現金ニ代フルヲ得
有價證券ノ種類及價格ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル

第九條 保證金ハ税金ノ忘納損害ノ賠償其他官廳ニ於テ命令ヲ執行スル爲費用ヲ要スルトキ之ニ充ツ
既納ノ保證金不足ト認ムルハ其ノ期限ヲ定メ之ヲ追徴ス

第十六條 左ノ場合ニ於テ臺灣總督ハ礦業ノ許可ヲ取消スヲ得
一一年以上休業シ又ハ許可ヲ得タル日ヨリ一ケ年

以內ニ礦業ニ若手セサル時
一錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルヲ發見シタル時

一第九條第二項ノ期限内ニ保證金ヲ納メサル時

法令

一第十四條第二項第十五條第二項ノ命令ニ從ハサル時
(右明治三十一年十月十九日官報)

○臺灣總督府令

臺灣總督府令第九十六號

明治二十九年九月府令第三十三號臺灣礦業規則施行細則第十七條第二號ヲ削除ス
明治三十一年十月五日

臺灣總督 男爵兒玉源太郎

臺灣總督府令第九十六號參照

明治二十九年九月七日臺灣總督府令第三十三號臺灣礦業規則施行細則(同年同月二十五日官報抄錄)

第十七條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス但出願手数料ハ之ヲ返附セス

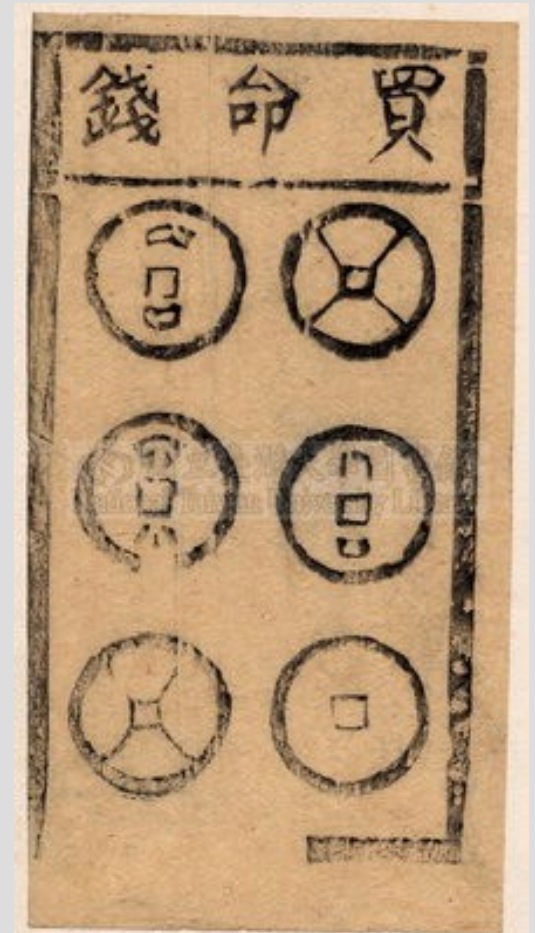
二礦業規則第八條ニ依リ定メタル期限内ニ保證金ヲ納メサル時
(右明治三十一年十月十九日官報)

臺灣總督府令第九十八號
清國人茶工勞規則左ノ通り相定ム

(5) 台湾の宗教、民俗に関する資料と図録



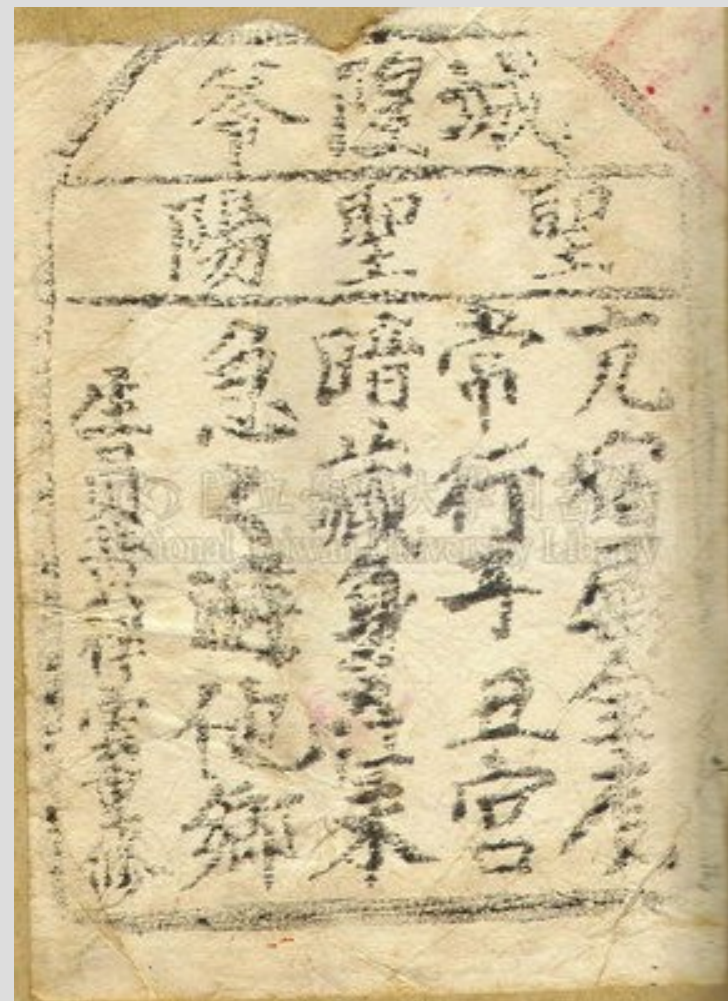
紙錢 牛馬將軍



紙錢 買命錢



嘉義仁武宮の保生大帝符



鹿港城隍爺の靈籤



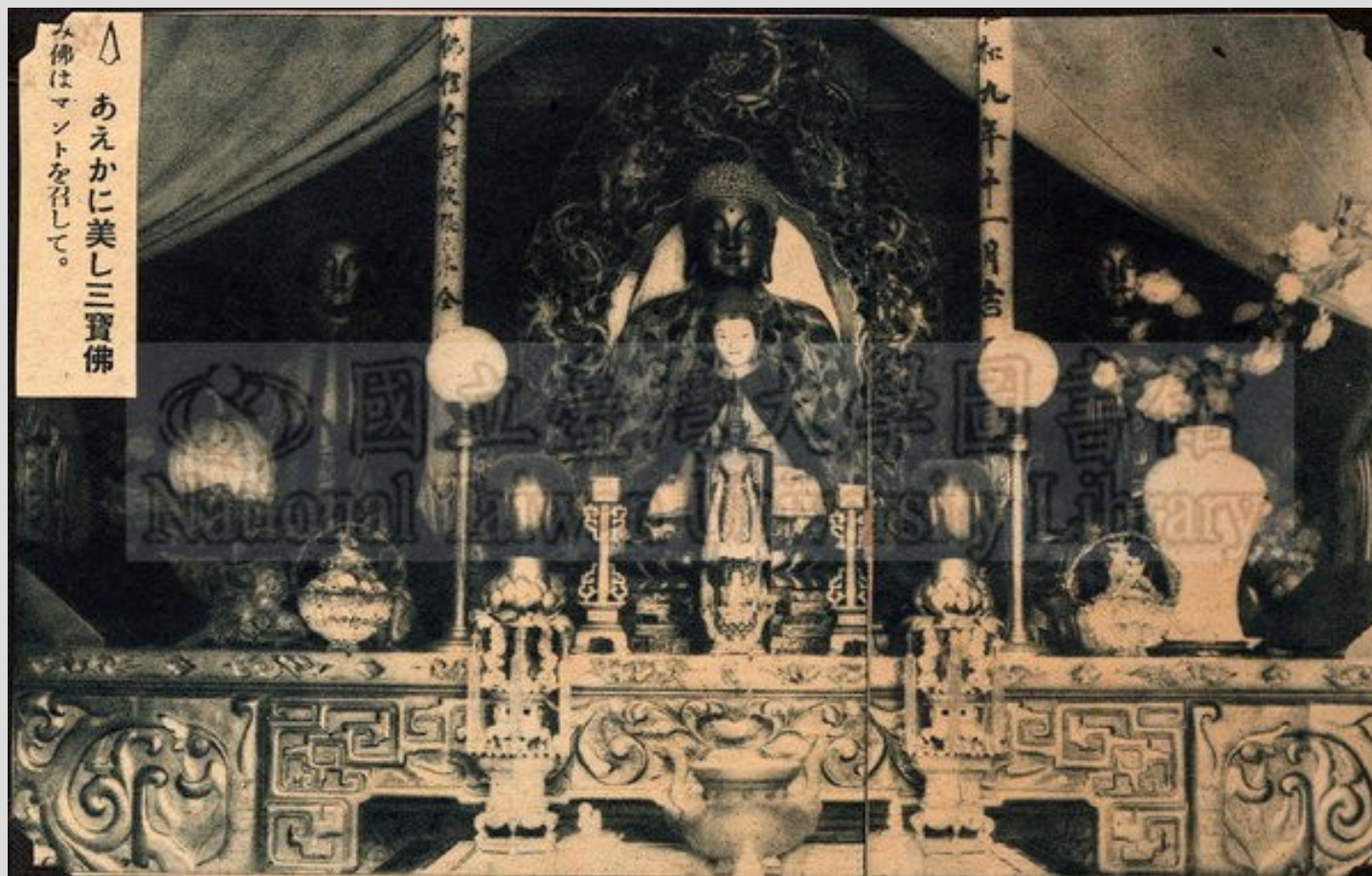
台北艋舺の龍山寺



龍山寺の神壇



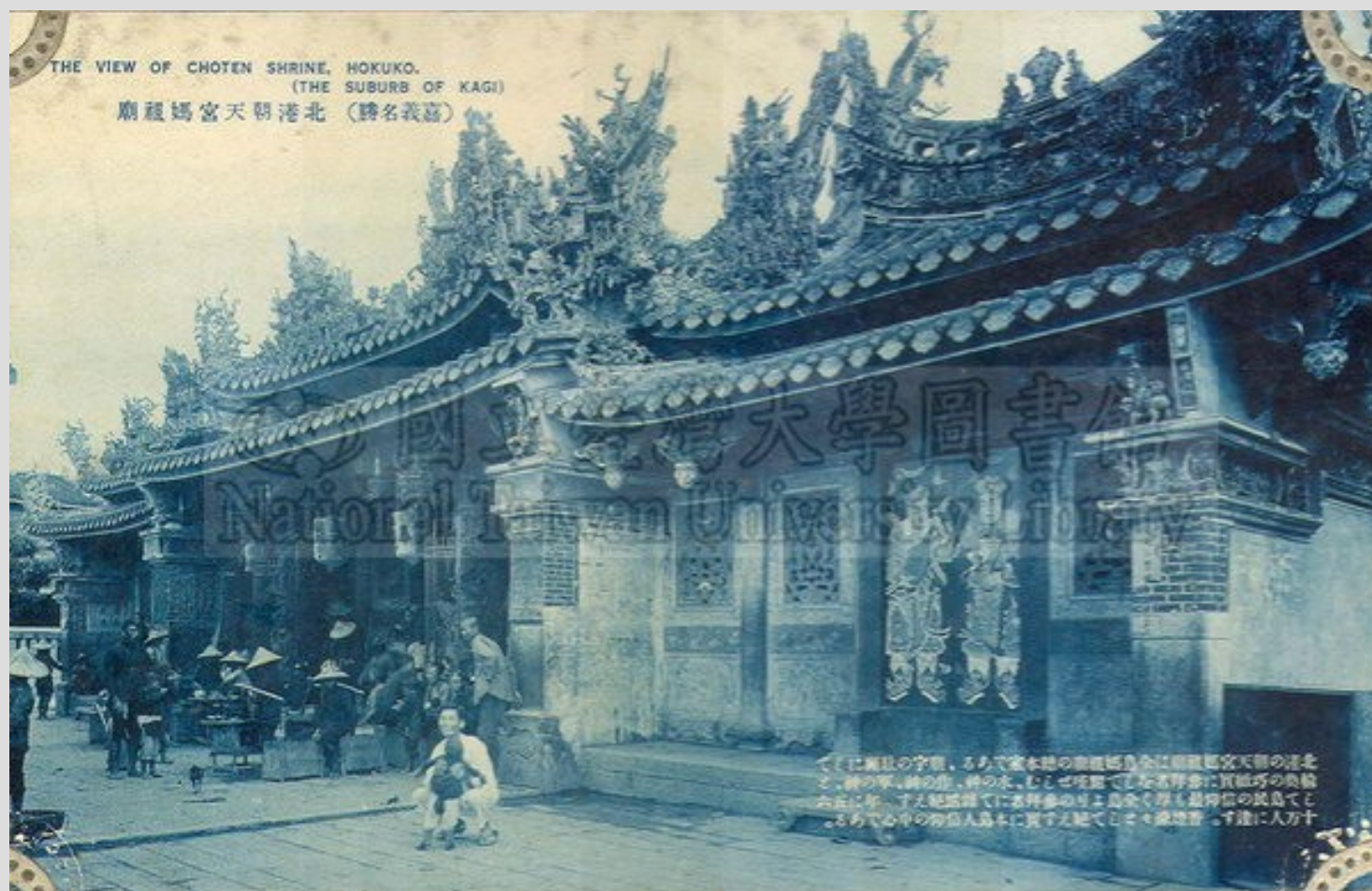
新竹の城隍廟



台南の開元寺三宝仏



嘉義新港の奉天宮



雲林北港の朝天宮



台南の開山神社

(6)「蕃人所要地調査書」と「蕃人調査表」



「蕃人所要地調査書」と「蕃人調査表」

三、法律関係の旧籍と統計資料

(1) 「臺灣法實證研究資料庫」 (台湾日治時期統計)

(Taiwan Database for Empirical Legal Studies)

- ◎ 収容の内容が完備
- ◎ カラー映像
- ◎ 統計資料

(2) 「日治法院檔案資料庫」

(Taiwan Colonial Court Records Archives)

土地

[illegible]

第二 周圍及面積

[illegible]

表中周圍及面積ハ實測ノモノニ非ラス次表モ亦同シ
澎湖島屬四十七ニ係ル周圍及面積ハ未タ調査ヲ了セサルモノ多ク其全體ヲ揭タル能ハサルヲ以テ本表ニハ假ニ調査シ得タル分ノミヲ掲載ス

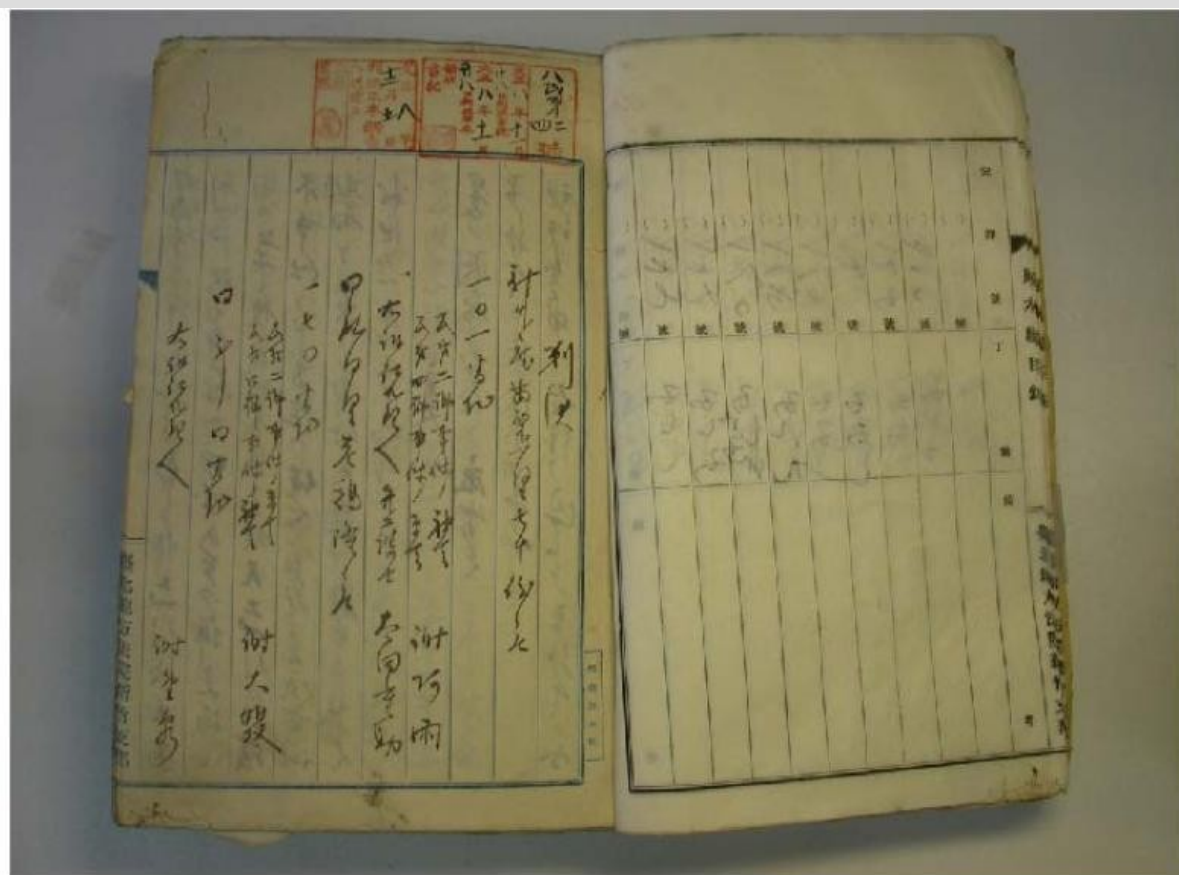
第三 島嶼名稱位置周圍及面積

土地	經緯度極點	周圍及面積
		島嶼名稱位置周圍及面積

本表所載ノ經緯度ハ二三ノ地圖ニ據リ彼此對照參酌シテ測出セシモノナリ然レトモ素
リ實測ニ係ル地圖ナキヲ以テ些少ノ差違ナキ能ハス大表モ亦同シ
澎湖廳ハ未タ管下全體ノ調査ヲ了セサルヲ以テ既ニ調査シ得タル分ノミヲ掲ク

地方	臺北	新竹	臺中	嘉義	臺南	鳳山	宜蘭	臺東	澎湖
所在地	臺北市 府前街	新竹市 新竹街	臺中市 臺中街	嘉義市 嘉義街	臺南市 臺南街	鳳山市 鳳山街	宜蘭市 宜蘭街	臺東市 臺東街	澎湖 馬公
經緯度	北緯 23°45'	北緯 24°45'	北緯 24°15'	北緯 23°45'	北緯 22°45'	北緯 22°45'	北緯 24°45'	北緯 22°45'	北緯 23°45'
面積	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里	1,210.00 平方里
方位	極東 西	極東 西	極東 西	極東 西	極東 西	極東 西	極東 西	極東 西	極東 西
地名	三 角 埔	五 甲 埔	大 甲 埔	深 港 埔	八 里 埔	南 港 埔	天 心 埔	卑 南 埔	花 港 埔
經緯度	北緯 23°45'	北緯 24°45'	北緯 24°15'	北緯 23°45'	北緯 24°15'	北緯 22°45'	北緯 24°45'	北緯 22°45'	北緯 23°45'
方位	極東 南	極東 南	極東 南	極東 南	極東 南	極東 南	極東 南	極東 南	極東 南
地名	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角	屈 臣 角
北緯	23°45'	24°45'	24°15'	23°45'	22°45'	22°45'	24°45'	22°45'	23°45'

(2) 「日治法院檔案資料庫」 (Taiwan Colonial Court Records Archives)



文獻引用：日治法院檔案，新竹地院，民事判決原本大正8年第1冊，第9頁，大正8年單民第23號

おわりに

- ◎ 台湾大学図書館所蔵の日本研究文献は
データベース化によって国際学術交流が促進される
- ◎ 植民地時代の各種の台湾統計資料は
日本植民史を研究する貴重な文献である
- ◎ 蔵書の調査、整理、公開することによって
今後の日本、アジア諸国、欧米の台湾研究に寄与する
ことができる